

写真投影法による場所への愛着の測定*

林 幸 史**
 岡 本 卓 也***
 藤 原 武 弘****

問 題

写真投影法 (Photo Projective Method: PPM) とは、写真による環境世界の投影的分析法である (野田, 1988)。この方法では、調査対象者にカメラを渡し、何らかの教示を与えて写真を撮らせる。そして写真に撮られたものを、自己と外界との関わりの反映と見なし、認知された環境 (外) と個人の心理的世界 (内) を把握、理解しようとする方法である。PPM は、環境学や地理学、心理学などの学問領域で注目されている。これは、これまで言語レベルでの測定によってしか知りえなかった撮影者の視覚的世界や心理的世界が、写真という視覚的データを介して垣間見られるからである。以下では、まず、調査技法として写真を利用した研究について、①インタビューを進行する上での技法、②ランドスケープ評価の技法、③個人の内面を把握するための技法、という3つの観点からレビューを行う。

インタビュー技法としての写真の利用

写真を用いた社会調査の嚆矢となる研究は、人類学や社会学の領域でみられる。たとえば Batson & Mead (1942) の研究に代表されるように、調査者が観察記録のために写真を用いることは多かった。その一方で、1970年代後半から80年代にかけて、インタビューのきっかけとして写真を用いる方法が多く用いられはじめた (PHOTAM: Gates, 1976; /photo elicitation: Haper, 1984)。こ

の方法では、写真の提示をきっかけに調査対象者から情報を引き出そうとする。研究例としては、人種間の境界についての研究 (Gold, 1991) や、農村コミュニティについての研究 (Schwartz, 1989) があげられる。Schwartz (1989) によれば、写真の提示をきっかけに、インタビューに付きまとう不自然さがなくなり、調査対象者の素朴な反応を引き出すことが出来たという。また、Modell & Brodsky (1994) のインタビューでは、写真の提示が会話を引き出すだけでなく、個人の思い出や共有されたイメージも喚起することが示された。さらに、高齢者の回想や語りを呼び起こすのに生活写真を用いることが有効であることも報告されている (志村・鈴木, 2004)。その他、看護現場での問診や病気の子どもの持つ母親に対して、写真を提示することからインタビューを始めるという研究もある (Higgins & Highley, 1986)。

このように、インタビューを進行するための技法として写真を用いた研究では、調査対象者が明確に言語化、概念化できなかった内容を、写真を介することで、具体的に表現することが可能となることが示されてきた。

ランドスケープ評価での写真利用

一方、人々が景観や環境をどのように認知しているのかを明らかにするランドスケープ評価の研究でも、写真は用いられてきた (Cherem & Driver, 1983; 工藤, 1994; 寺本・大西, 2004; 奥・深町, 1995; 長瀬・浅野, 2004; 青野ほか, 2005など)。初期の研究として、Cherem & Driver

*キーワード：写真投影法、場所への愛着、環境認知

本研究は文部科学省21世紀 COE プログラム「人類の幸福に資する社会調査」の研究の助成により行われた。

**関西学院大学大学院研究員

***関西学院大学大学院社会学研究科研究科研究員

****関西学院大学社会学部教授

(1983)の研究がある。彼らは、自然公園の来訪者を対象にPPMでの調査を実施し、自然環境下における人間の知覚と情報処理過程について明らかにしている。本邦では、工藤(1994)が、農村集落で生活する小学生と高齢者に「私の住んでいるところ、好きなもの、写したいこと」というテーマのもとに撮影を依頼し、農村集落住民の環境イメージを明らかにした。長瀬・浅野(2004)は、森林ボランティア団体および一般大学生が撮影した写真から、森林の空間特性や森林との関わりの程度の違いが、森林における空間認知に影響することを明らかにした。

これらは、人々が環境をどう見ているのかを明らかにした研究である。それに加えて、PPMを街づくりやコミュニティ政策に生かそうとする試みもなされてきた。例えば、子どものための街づくりで、久・鳴海(1992)は子どもたちが何に注目して生活しているのかを把握するため、「1日の生活で、好きな場所や嫌いな場所」を撮影させた。その結果、田舎の子どもの写真には人の姿がほとんど写っておらず、公園や店舗の全景を写しているものが多かった。それに対して、都会の子どもの写真には店内の様子や塾に集まる子どもの姿など人間の活動風景を写すものが多く存在していた。さらに、古賀ほか(1999)は、PPMを応用した「キャプション評価法」という手法を提案している。キャプション評価法とは、調査参加者にカメラを持たせて自由に街を歩かせ、気になる景観を撮影させるとともに、景観に対する評価を求める調査手法である。彼らは、得られた約1000語の景観に関する語句を集計し、環境整備への提言を行っている。曾ほか(2001)は、団地住まいの高齢者にカメラを渡し、居住環境における好きなもの(ひと・こと・ところ)、困っているもの、思い出のものを撮影するよう求めた。写真からは、個人が日常生活の中で何を感じ、何を望んでいるのかといった生活の中の価値や意味が表れた個人のライフストーリーが把握できることが示された。さらに彼らは、写真発表会を実施した。個人が撮影した写真の発表会を行うことで、住民の団地再生計画への意欲が高まったと報告している。また、九州天草地方の住民を対象に調査を実施した藤原(2005)によると、写真からは、

人々の暮らしが自然環境によって規定されていることや、コミュニティへの想いや誇りといったコミュニティ感覚が垣間見られたという。

個人の内面世界を把握するための写真利用

個人の内面世界を知る手がかりに写真を用いた研究では、生活の中で個人が重視するもの、関心があるものなどが明らかにされてきた(Ziller & Lewis, 1981; Ziller, 1990, 2000; 向山, 2004a; Hagedorn, 1990, 1996; 植村, 1993, 1996など)。例えば、Ziller & Lewis(1981)は、調査対象者にカメラを渡し、「自分自身が誰であるか」を伝えるような写真を撮影するように依頼した。その結果、成績の良い学生は特に重要なものとして書籍を写しており、反対に成績のふるわない学生は、学校の写真が少なく、友人の写真が多かった。つまり撮影された写真には、学生たちのアイデンティティに関わる重要なものが反映されていた。さらにZiller(1990, 2000)は、自己を知るきっかけとして、「自叙写真法」という手法での調査を行った。具体的には、「自分自身が誰であるかを話すように12枚の写真を撮影して下さい」といった教示を与え、個人が環境内の何に関心を向けているのかを理解し、その結果をカウンセリングに生かそうとした。植村(1993)は、107名の中学生を対象に孤独感を測定した。その得点が上位・下位それぞれ10名ずつに、1週間の生活をカメラに撮るように教示した。その結果、孤独感得点が高い学生は、生活空間が狭く、屋内のものを被写体とする割合が高いことが分かった。さらに植村(1996)は、この手法を高齢期夫婦に適用し、夫婦のパートナーシップが日常生活に影響していることを明らかにしている。なお、PPMを用いて個人の内面世界の把握を試みた研究については、向山(2004b)や都筑(2005)が詳細なレビューを行っている。

以上、調査技法として写真を用いた研究では、1枚の写真から個人の視覚的世界や環境との関係性、さらには個人の心理的世界が明らかにできることが示されてきた。さらには、言語として概念化が困難な内容も、写真を用いることによって表現が可能になることが示された。藤原(2005)も指摘するように、人間は言語や理性だけで物事を把握、理解しているのではない。感性や情緒、イ

メージなど概念化できないものも受信・発信しているのである。言語レベルでの測定を中心とした従来の社会調査では、感性や情緒、イメージのような概念化が困難な側面の測定は困難であった。しかし、PPMは、個人の外的・内的世界に関わるイメージ、ステレオタイプ、メタファーを測定する可能性を有するのである (Okamoto et al., 2006)。

本研究の目的

本研究は、PPMを用いた場所への愛着 (place attachment) の測定を第1の目的とする。第2に、新しい社会調査の技法としてのPPMの可能性を明らかにすることを目的とする。

場所への愛着とは、個人と場所との情緒的な絆のことであり、知識や信念に関わる態度の認知的成分、活動や行動意図に関する態度の行動的成分を含有するものである (Low & Altman, 1992)。環境心理学の領域では、場所への愛着に代表される人と場所との心理的結びつきに関心が寄せられている。それらは「場所の感覚 (Hummon, 1992; Jorgensen & Stedman, 2001; Hay, 1998)」、「場所アイデンティティ (Prosyansky, 1978)」、「場所への依存 (Stokols & Shumaker, 1981)」、「根つき (McAndrew, 1998)」といった概念で表現される。しかし、これらの概念はポジティブな認知・感情に基づく結びつきという点では共通するため、本研究では、場所への愛着を人と場所との心理的な結びつきを表わす概念の総称として位置づける。

愛着の対象とされる場所は、自宅や居住地域 (Hidalgo & Hernandez, 2001) のような日常領域から、観光地 (Moore & Graefe, 1994) や宗教的な聖地 (Mazumdar & Mazumdar, 2004) といった非日常領域まで多岐にわたる。場所への愛着に関する研究では、言語による質問項目を用いての測定が試みられてきた (例えば McAndrew, 1998; Moore & Graefe, 1994)。しかし、言語を基礎とした尺度での地域への愛着の測定について、藤原 (2005) は、今住んでいる地域に対する愛着の強さを測定することは可能であるが、調査協力者が思い浮かべる地域のイメージまでは把握できないため、愛着の高さや強さは同じでも、対象の認知的側面は異なるかもしれないという指摘

をしている。より詳細に述べると、「私は～という場所に愛着を感じる」や「～という場所に一体感を感じる」といった質問項目では、その場所に対する愛着の強さは測定できるものの、対象者が具体的にはどのような側面に愛着や一体感を感じているかまでは把握できないということである。しかし、このような問題はPPMを用いることで克服される。このことから、PPMを用いての場所への愛着の測定は非常に有効だと考えられる。

本研究では、愛着を測定する場所として大学キャンパスを選択した。大学生にとって大学キャンパスは生活の中心となる場所であり、最も馴染みのある場所の一つである。そのため、大学キャンパスで撮影された写真には、その場所にまつわる記憶や経験、場所に対する評価、感情といったものが容易に投影されると考えた。

方法

調査対象者

W大学の学生30名 (男性11名・女性19名)、X大学の学生20 (男性7名・女性13名)、Y大学の学生25名 (男性11名・女性14名)、Z大学の学生21名 (男性3名・女性18名) の合計96名 (男性32名・女性64名) であり、全大学の平均年齢は19.99才 (SD=2.39) であった。

写真調査の教示

レンズ付きフィルム (Fujifilm 写るんです Flash 27枚撮り [Simple Eye 800 FUJIFILM]) を渡し、「〇〇大学での1週間をこのカメラで撮影してください」と教示を与えた。撮影枚数については、出来るだけ多く撮影して欲しいが、27枚撮りきる必要はないと教示した。また、撮影している対象が何であるのかを明確にさせるため、写真ごとに、「何 (を行っているところ) を撮影したのか」、「その時にどのように感情をもったのか」について記述するよう求めた。

結果

撮影対象の分類

調査対象者によって撮影された写真は、合計で1404枚であった。そのうち、被写体についての記

述がなく撮影対象が特定できない写真と露光不足の写真146枚を除外し、1258枚の写真进行分析対象とした。4つの大学をよく知る3名の大学院生にKJ法による撮影対象の分類を依頼した。分類の際には、撮影対象に関する記述を参考にしてもらった。分類の結果、撮影対象は、表1のように4つのカテゴリに分類された。4つのカテゴリとは、①場所や施設、空間などを被写体としているもの、②人物や、その行動、部活動の様子を被写体としているもの、③大学のパンフレットで紹介されるなど特にその大学を象徴する施設、④その他、である。

場所・施設の写真

場所・施設を撮影した写真に添えられたコメントは、「8号棟は広くてキレイで好き」「いつもの風景」「お気に入りの場所。癒される」「このソファが落ち着く」「学校に来ていると実感できる場所」「ゆっくり勉強できるから一番好きな場所」「居心地良すぎ！ほんま大好きな教室」などであった。以下では、場所・施設カテゴリに含まれる対象を数多く撮影していた個人に着目し、その事例を紹介する。

Aさんによって撮影された写真（写真1）は、19枚中の14枚が場所・施設を被写体とした写真であった。写真には、「いつも正門前の時計を見て急いでクラブに行ったなあ」「このトイレはいつもピカピカで気持ちが良い」「この場所が大好きだ」といったコメントが添えられている。またBさんによって撮影された写真（写真2）は、7枚中4枚が教室、図書館、校舎を対象とした写真であった。写真には、「これから初めての研究で上手くやれるか心配だった思い出の場所」「大学を感じさせる」といったコメントが添えられている。

シンボリック存在の写真

次にシンボリック存在に含まれた対象を撮影している事例を紹介する。このカテゴリには、その大学を象徴するような建物や他大学の学生に自慢できるような施設を撮影したものが含まれている。具体的には、W大学であればスパニッシュ・ミッションスタイルの時計台や中央芝生、X大学では春には桜が咲きほこる法文坂、Y大学はモダン建築の校舎に囲われた中庭や多くの学生が憩うフォーラム、ローソンや学生専用駐車場、Z大学

表1 各カテゴリの撮影対象と枚数

| カテゴリ | 撮影対象 | W | X | Y | Z | 計 |
|----------|---------------|----|-----|----|-----|-----|
| 場所・施設 | 教室 | 8 | 52 | 24 | 17 | 101 |
| | 校舎外観 | 8 | 32 | 12 | 36 | 88 |
| | 自然（樹木、紅葉） | 25 | 17 | 7 | 7 | 56 |
| | 校舎内（教室以外） | 10 | 13 | 16 | 6 | 45 |
| | 図書館 | 8 | 13 | 12 | 5 | 38 |
| | 食堂、レストラン | 6 | 9 | 1 | 10 | 26 |
| | 道、階段 | 6 | 6 | 1 | 2 | 15 |
| | 売店（生協） | 5 | 7 | 1 | 0 | 13 |
| | 正門 | 0 | 3 | 6 | 0 | 9 |
| | 広場 | 4 | 2 | 3 | 0 | 9 |
| | トイレ | 4 | 3 | 1 | 1 | 9 |
| | 机、椅子、ソファ | 0 | 3 | 4 | 1 | 8 |
| | 体育館 | 2 | 0 | 5 | 1 | 8 |
| | テニスコート | 0 | 4 | 2 | 1 | 7 |
| | 駐輪場 | 1 | 3 | 0 | 3 | 7 |
| | ベンチ | 0 | 0 | 1 | 6 | 7 |
| | グラウンド | 3 | 2 | 1 | 0 | 6 |
| | 研究室 | 0 | 0 | 2 | 4 | 6 |
| | 小川 | 3 | 0 | 0 | 2 | 5 |
| | 庭園 | 3 | 0 | 1 | 0 | 4 |
| 池 | 0 | 0 | 2 | 1 | 3 | |
| ゴルフ練習場 | 0 | 0 | 3 | 0 | 3 | |
| シンボリック存在 | アドベント礼拝（点灯式） | 20 | 0 | 0 | 0 | 20 |
| | クリスマスツリー | 18 | 0 | 0 | 0 | 18 |
| | 時計台 | 15 | 0 | 0 | 0 | 15 |
| | 中庭 | 0 | 1 | 0 | 10 | 11 |
| | 駐車場 | 0 | 0 | 0 | 9 | 9 |
| | モスバーガー | 0 | 0 | 8 | 0 | 8 |
| | フォーラム（広場） | 0 | 0 | 0 | 8 | 8 |
| | ローソン | 0 | 0 | 0 | 8 | 8 |
| | コミュニケーション・ホール | 0 | 0 | 7 | 0 | 7 |
| | 緑風館 | 0 | 0 | 7 | 0 | 7 |
| | 法文坂 | 0 | 6 | 0 | 0 | 6 |
| | 中央芝生 | 4 | 0 | 0 | 0 | 4 |
| | オブジェ、銅像、石碑 | 1 | 1 | 2 | 0 | 4 |
| | サカエ薬局 | 0 | 0 | 0 | 4 | 4 |
| サロンシーボー | 0 | 0 | 3 | 0 | 3 | |
| メンバー・活動 | メンバー | 99 | 115 | 30 | 102 | 346 |
| | サークル・クラブ活動 | 46 | 20 | 2 | 0 | 68 |
| | 部室、ボックス | 17 | 12 | 5 | 6 | 40 |
| | 教員 | 2 | 2 | 7 | 2 | 13 |
| | サークル・クラブ備品 | 0 | 0 | 4 | 4 | 8 |
| その他 | 飲食物 | 7 | 7 | 10 | 11 | 35 |
| | 校外の景色 | 0 | 8 | 11 | 7 | 26 |
| | 案内板、表示板 | 1 | 8 | 0 | 4 | 13 |
| | 掲示板、伝言板 | 2 | 0 | 6 | 3 | 11 |
| | 登下校路 | 1 | 10 | 0 | 0 | 11 |
| | バイク | 0 | 0 | 0 | 11 | 11 |
| | 個人所有物 | 3 | 1 | 2 | 4 | 10 |
| | 自動販売機 | 0 | 1 | 6 | 2 | 9 |
| | ネコ | 2 | 6 | 0 | 0 | 8 |
| | 端末装置 | 0 | 7 | 0 | 0 | 7 |
| | パソコン | 0 | 4 | 1 | 0 | 5 |
| | エレベーター | 0 | 4 | 1 | 0 | 5 |
| | バス、バス停 | 0 | 0 | 3 | 0 | 3 |
| 時計 | 0 | 1 | 2 | 0 | 3 | |
| 駅 | 0 | 3 | 0 | 0 | 3 | |
| ゴミ箱 | 0 | 1 | 1 | 1 | 3 | |

注)：4大学での合計撮影枚数が3以上のものを掲載



写真1 Aさんが撮影した写真の一部



写真2 Bさんが撮影した写真の一部



写真3 Cさんが撮影した写真の一部



写真4 Dさんが撮影した写真の一部

ではモスバーガーやサロンシーポー、緑風館、コミュニケーションホールといった開放的な雰囲気
の飲食施設が当該カテゴリに含まれる。大学のシンボリック存在や自慢の対象となる施設を撮影した
写真のコメント例を挙げると、W大学の時計台や中央芝生に関しては、「改めて綺麗だと思った」
「門に入って見える時計台に昔あこがれていました」「やっぱり絵になります」「W大学といえば
コレ!」といったコメントが挙げられる。Y大学

の中庭、ローソン、学生専用駐車場については、「この大学の中庭は広いからすごくイイです」
「キャンパス内にコンビニがあるというのはとても便利で嬉しい」「駐車場はめちゃ広くてすごい
と思った」、Z大学の飲食施設では、「大学にモスがあるなんてめずらしいかな?」「おしゃれな感
じでGood」といったコメントが挙げられる。

このカテゴリに含まれる対象を数多く撮影して
いた個人の事例に着目すると、W大学のCさん

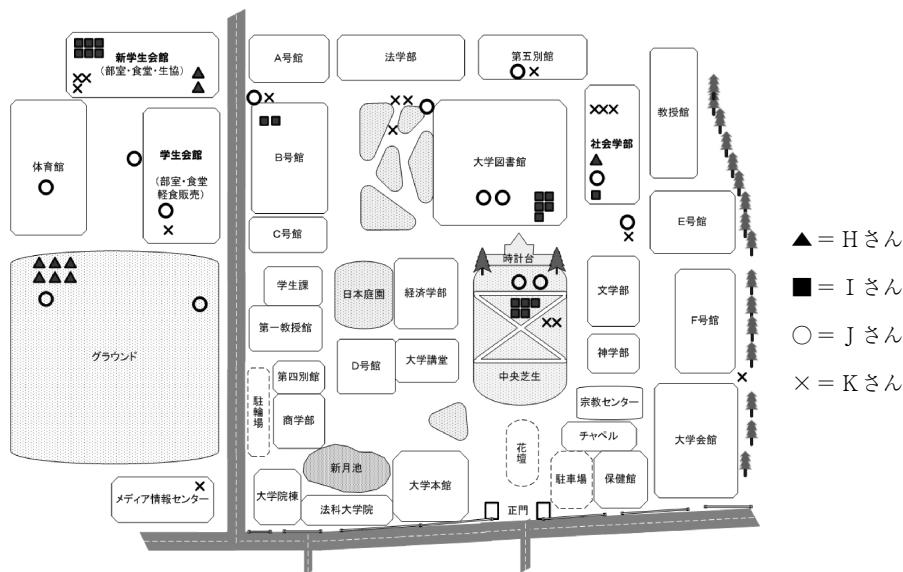


図1 W大学内での撮影場所

が撮影した写真(写真3)は、16枚中の12枚が時計台と中央芝生の風景、毎年12月に中央芝生で行われるクリスマスツリー点灯式、クリスマスイルミネーションが施されたヒマラヤ杉などを被写体とした写真であった。Y大学のDさんが撮影した写真(写真4)は、27枚中の10枚がフォーラムと呼ばれる広場や、中庭、ローソン、学生専用駐車場などを被写体とした写真であった。

メンバー・活動の写真

メンバー・活動カテゴリの写真に関しては、写真と記述内容から、ゼミ・部活・サークルの仲間を撮影したもの、またサークルや部活での活動風景を撮影したものが含まれている。これらの写真には、「笑顔がナチュラルでステキ」「いつものメンバーで楽しい」「元気さとチャームिंगさが素敵な先生」「大好きなメンバー」「大切な仲間です」といったコメントが添えられている。以下では、このカテゴリに含まれる対象を数多く撮影していた個人に着目し、その記述事例を紹介する。なお、メンバー・活動カテゴリに含まれる写真の事例に関しては、被写体となった個人のプライバシーを考慮し、掲載しない。

Eさんによって撮影された写真は、17枚中9枚が友人を撮影した写真であった。写真には、彼・彼女らと過す日常の一コマが収められており、具体的には、食事をする友人や、授業中に居眠りを

する友人の姿などが写されている。またFさんは、撮影27枚中の23枚が友人を対象としたものであり、骨折して松葉杖をつく友人や、ケーキを食べる友人、講義ノートを写す友人など、屋内外を問わず友人にカメラを向け、彼らの自然な表情をカメラに収めている。Gさんの写真は14枚中の6枚がゼミやサークルの友人を撮影したものである。写真には、「みんな一人ひとり個性があって、認め合っていて好き」「やっぱり好きやわあ。みんなといると楽しい」などのコメントが添えられている。

写真撮影の範囲

図1は、W大学の社会学部生4名が撮影した場所と枚数を、キャンパスマップに照合した結果である。HさんやIさんは、特定の場所で撮影が集中しているのに対して、JさんやKさんの撮影場所は拡散的であることが読み取れる。また、社会学部、時計台、新学生会館といった場所では、3名ないし4名全員が撮影しているのに対して、B号館、体育館、メディア情報センターといった場所で撮影しているのは、1名だけである。これらは、4名のみでの撮影場所に着目した結果であるが、W大学の調査協力者の半数が時計台、もしくはその両脇のクリスマスツリーを撮影していた。またX大学では、4割の学生が学部校舎を撮影しており、Z大学のモスバーガーやY大学の

ローソンも各大学の3割以上の人々が撮影対象としていた。

考 察

写真に投影された場所への愛着

大学生は、特定の場所や施設、大学のメンバー、大学のシンボルといったものを通して、大学キャンパスという場所への愛着を形成していると推測できる。大学によって、カテゴリごとの撮影枚数や比率は異なるが、ここでは大学生一般がキャンパスに対して感じる愛着の質的側面を明らかにするため、撮影カテゴリごとに考察する。

場所・施設を撮影対象とした写真からは、その場所が撮影者にとって、日常的に慣れ親しんだ場所であり、個人にとって意味のある場所であることが分かる。これらの写真には、「キレイで好き」「お気に入りの場所」「気持ちが良い」「大好きだ」といったコメントが添えられていたことから、その場所がポジティブな情緒の評価を伴うことは明らかである。さらには、「癒される」「落ち着く」などのコメントも見られ、そこに居ることが、個人に心地よさや安心感をもたらしていることも分かる。事例からも、Aさんにとって、正門、教室、図書館、生協といった場所が、日常的な大学の風景であることは明らかである。Bさんにとって、被写体とされた校舎や教室が思い入れのある場所であり、所属大学の一員であることを実感できる場所なのであろう。それらの場所には、大学生活での経験や感情が強く結び付いている。つまり、大学キャンパス内の場所・施設を撮影した写真には、場所への愛着の情緒的側面が投影されている。Tuan (1974) は、ある「空間」が個人にとって意味と愛着で満ちた「場所」になるには、人と環境との相互作用が必要だとしている。教室、校舎、食堂といった場所・施設は、大学生の多くが日常的に利用し、そこでの経験を積み重ねていく。やがて、その場所は個人にとって思い入れのある場所となり、愛着を感じるようになると考えられる。このことは、ある地域での居住年数が長くなると、地域に対する愛着が強くなるという報告 (Hay, 1998) からも明らかである。

次に、大学のシンボリック存在を撮影した写真に

ついて考察する。大学のシンボルに関するコメントは、「めずらしい」「キャンパス内にあるのは(中略)…うれしい」「この大学の中庭は広くてすごくイイ!」「憧れていた」といったコメントが多く、その評価は他大学との比較に基づいていることに特徴がある。さらに学生は、それらの対象の美的な面が、機能的な面において優れていると考えていることが分かる。他大学にはないものが自分たちの大学にはあるという認知をもとに、彼らは大学を通じて肯定的なアイデンティティを得ていると考えられる。このことから、大学のシンボルを撮影した写真には、場所への愛着の中でも、場所との認知的なつながりに関する側面が投影されているといえよう。Proshansky et al. (1983) は、個人が生活を送る物理的世界についての認知から成る自己アイデンティティを場所アイデンティティとして定義している。また Relph (1976) によれば、場所アイデンティティの形成には、物理的環境、他者との社会的相互作用、その場所に関連した意味やシンボルといった3つの要素の相互関連性が必要であるという。そして、場所に関連した意味やシンボルは、その場所への帰属意識を提供するとしている。大学生は所属する大学のシンボリック存在を自己の一部として取り込み、場所との同一化を図ることで、大学への所属意識を高めていることが推察できる。このような場所との認知的なつながりも場所への愛着の一側面であると考えられよう。

メンバー・活動カテゴリに関しては、撮影者が所属する部活動、サークルやゼミの友人、および彼らとの活動の様子を写した写真が含まれていた。「いつものメンバーで楽しい」「大好きなメンバー」「大切な仲間」といったコメントから、これらの写真には、メンバーに対する親近感や仲間意識、一体感といった社会的な絆が投影されているといえる。居住地域への愛着の発達においても、愛着は物理的な環境だけでは形成されず、家族や隣人との社会的な相互作用によって発達していく (Riley, 1992)。居住地域への愛着に関して、家族や隣人の存在が欠かせないのは、彼らとの社会的関係や共有体験が場所と結びつけられるからであろう。このことから、大学のメンバーとの社会的な絆もまた、場所への愛着の一要素に

なると考えられる。

場所や施設、メンバー、大学のシンボルといった3つのカテゴリは、Wapner & Demick (1992) が指摘する環境の3つの側面にそれぞれ対応する。彼らは、環境を人間と相互交流を行う存在として捉え、環境の特性には、物理的側面(例:自然物と人工物)、对人的側面(他の人々)、社会文化的側面(例:法、規則、慣習)が含まれるとしている。これら環境の諸側面と、愛着の対象となるカテゴリとの対応を具体的に述べると、環境の物理的側面は場所・施設カテゴリに対応し、对人的側面はメンバー・活動カテゴリとの対応づけができる。また社会・文化的側面に関しては、大学のシンボリック存在との対応づけが可能である。なぜなら、大学のシンボリック存在はその大学の歴史とともに発達し、大学成員に広く承認される価値の表象だからである。

撮影場所をキャンパスマップに反映させた結果からは、各自が思い浮かべている「W大学」が異なっていることが推察できる。HさんやIさんのように撮影が特定の場所に集中している人は、大学生活の中心拠点となる場所を通して大学への愛着を形成していると考えられる。一方、JさんやKさんのように、学内の様々な場所で撮影している人は、キャンパス全体を通して大学への愛着を形成しているといえる。このことから、個人が大学をどのような対象を通して認知し、所属意識を高めているのか、また、どの場所を通して大学キャンパスへの愛着を形成しているのかが明らかになったといえる。これは、言語による質問紙調査では、不明瞭になりがちであった側面を明らかにしたと考えられよう。

以上、PPMによって測定できた場所への愛着の個人的反応について考察した。PPMでは、個人的反応の測定に加え、大学成員に共通する集合的反応の測定も可能であるように思われる。図1から、社会学部、時計台、新学生会館といった場所では、3名ないし4名全員が写真を撮影していることが示された。さらに、各大学には学生の多くが撮影するシンボリック存在があることも見出された。このことは、シンボルとしての価値が各大学集団で共有されていることを示すものである。つまり、シンボリック存在が撮影された写真には、

個人的な反応のみならず、大学に所属していることの誇りや自慢、社会的威信といった集団的反応が投影されているといえよう。

PPMの可能性

社会調査の技法としてPPMを用いることのメリットをまとめると次の3点を指摘できる。①イメージの簡便な測定、②個人的思い入れと集合的表象の両面の測定、③応用可能性である。

1点目については、PPMが言語を基礎とした質問紙法に比べて、調査対象者の自由度が高く、本人が言語化できない情報を含んでいる点が挙げられる。多くの社会調査で用いられる言語レベルの質問紙では、調査項目の概念を共有していることを前提に、言語的な刺激(質問)に対する反応(選択)を測定しており、概念化できないものの測定は困難であった。しかしPPMでは、概念化できない対象を読み取ることが出来るといえる。さらに、単に言語によらないだけでなく、シャッターを押すだけというカメラの利便性も社会調査を実施する上での大きなメリットとなる。第1に、PPMは調査協力者に特別な技術を要求しない。カメラは、年齢や国籍を問わず、誰もが扱えるものだからである。第2に、即時的な記録が可能である。近年のカメラは容易に携帯できるので、撮影をしようと思ったその場で、瞬時に撮影できる。第3に、質問紙への回答という心理的な負担を伴う作業とは違い、楽しみながら調査に参加が出来る。

2点目のメリットとしては、写真には個人的な思い入れと、メンバー間で共有しうる集合的表象の両方が表れることが指摘できる。Okamoto et al. (2006) は、PPMを用いた社会的ステレオタイプ測定を試みの中で、「KG大学らしいもの」、「KG大学らしくないもの」として撮影された対象には、個人的反応と集合的反応がそれぞれ投影されていることを指摘している。つまり、ステレオタイプとしてのKG大学には、多くの人々が共有する典型的な社会的ステレオタイプだけでなく、個々人が「KG大学といえばこれ」と思い込んでいる個人的な反応が投影されていると述べている。

3点目の応用可能性については、大きく3つに分類することが出来る。第1に街づくり・環境づ

くりへの応用可能性である。PPMは、ランドスケープ評価・キャプション評価の手法として建築・都市・観光地計画の現場で用いることが可能である。例えば久・鳴海(1992)や古賀ほか(1999)は、PPMを子どものための街づくりに役立てている。また羽生ほか(2002)は、白川村荻町地区において観光客が集落内でどのような行動をしているのか、またどのような集落風景が観光対象となっているのかをPPMを用いて明らかにし、今後の観光地計画への提言を行っている。第2に個人の振り返り・教育現場への応用可能性である。例えば曾ほか(2001)は、PPMによる調査の後に写真発表会を実施したが、その経験が参加者らの住環境への関心を高め、再生計画への意欲が見られるようになったという。またZiller(2000)は、得られた写真をカウンセリングに応用し、山中(1978)はクライアントによって撮影された写真にもとづいて精神療法を進める写真療法を実施している。臨床場面への応用に関わらず、日常の風景をファインダー越しに覗き、写真として切り取ることで、新たな発見が得られることもあろう。PPMで場所への愛着の測定を試みたStedman et al.(2004)は、参加者が調査を通じて、その場所に愛着を感じる理由を理解するようになったと報告している。第3にハザードマップ作成への応用可能性である。具体的には、子どもたちに、通学路や遊び場で危険だと思う場所を撮影させることで、子どもの視点に立った整備計画を立てることが可能になる。言語化する能力が十分でない子どもには、PPMが大変有効なものとなる。

今後の課題

最後に、PPMのデメリットについて指摘する。第1に、写真の読み手の主観が結果の解釈に入り込む可能性が挙げられる。それを防ぐために本研究では、撮影対象についての記述を求めたが、これによってPPMのメリットである簡便性が損なわれた点は否めない。しかし、撮影対象が明確になるように写真撮影を行う旨の教示を与えることなどで改善できるであろう。第2に、写真について数量的に分析していない点も、課題として挙げられる。例えば、小島ほか(2002)の研究のように、数量化Ⅲ類などを適用することで、より精緻

な分析が可能となるであろう。最後に、金銭的なコストもPPMのデメリットとして挙げられる。しかし、調査協力者が所有するデジタルカメラや携帯電話に付属のカメラを活用すれば、調査に掛かる経費を大幅に削減することは可能であろう。

引用文献

- 青野幸子・加我宏之・下村泰彦・増田昇, 2005, 「泉北丘陵端部の農村地域における地形特性から捉えた居住者が好む風景魅力の解明」, 『ランドスケープ研究』68(5): 753-756.
- Batson, G. & Mead, M., 1942 *Balinese Character: A Photographic Analysis*, New York: The New York Academy of Science. (外山昇訳, 2001, 『バリ島人の性格 — 写真による分析』国文社.)
- Cherem, G. J. & Driver, B. L., 1983, "Visitor Employed Photography: A Technique to Measure Common Perceptions of Natural Environments", *Journal of Leisure Research*, 15(1): 65-83.
- 藤原武弘, 2005, 「コミュニティ政策への社会心理学的アプローチ」, 『コミュニティ政策』3: 66-84.
- Gates, M., 1976, "Measuring Peasant Attitudes to Modernization: A Projective Method", *Current Anthropology*, 17(4): 641-658.
- Gold, S. J., 1991, "Ethnic Boundaries and Ethnic Entrepreneurship: A Photo-Elicitation Study", *Visual Sociology*, 6(2): 9-22.
- Hagedorn, M. I., 1990, "Using Photography with Families of Chronically Ill Children", Leininger, M. & Watson, J. eds., *The Caring Imperative in Education*, New York: The National League for Nursing, 227-234.
- Hagedorn, M. I., 1996, "Photography: An Aesthetic Technique for Nursing Inquiry", *Issues in Mental Health Nursing*, 17(6): 517-527.
- 羽生冬佳・黒田乃生・高橋正義, 2002, 「白川村荻町地区における観光行動と観光対象としての集落風景に関する研究」, 『ランドスケープ研究』65(5): 785-788.
- Harper, D., 1984, "Meaning and Work: A Study in Photo Elicitation", *Journal of visual sociology*, 2(1): 20-43.
- Hay, R., 1998, "Sense of Place in Developmental Context", *Journal of Environmental Psychology*, 18(1): 5-29.
- Hidalgo, M. C. & Hernandez, B., 2001, "Place Attachment: Conceptual and Empirical Questions", *Journal of Environmental Psychology*, 21(3): 273-281.
- Higgins, S. S. & Highley, B. L., 1986, "The Camera as A

- Study Tool: Photo Interview of Mothers and Infants with Congestive Heart Failure”, *Children’s Health Care*, 15: 119-122.
- 久隆浩・鳴海邦碩, 1992, 「子どもと地域空間の関わりを分析する手法としての写真投影法の試み」, 『日本都市計画論文集』 27: 715-720.
- Hummon, D. M., 1992, “Community Attachment: Local Sentiment and Sense of Place”, Altman, I. & Low, S. M. Eds., *Place Attachment*, New York: Plenum Press, 253-278.
- Jorgensen, B. S. & Stedman, R. C., 2001, “Sense of Place as an Attitude: Lakeshore Owners Attitudes toward Their Properties”. *Journal of Environmental Psychology*, 21(3): 233-248.
- 古賀誉章・高明彦・宗方淳・小島隆矢・平手小太郎・安岡正人, 1999, 「キャプション評価法による市民参加型景観調査——都市景観の認知と評価の構造に関する研究その1」, 『日本建築学会計画系論文集』 517: 79-84.
- 小島隆矢・古賀誉章・宗方淳・平手小太郎, 2002, 「多変量解析を用いたキャプション評価法データの分析——都市景観の認知と評価の構造に関する研究その2」, 『日本建築学会計画系論文集』 550: 51-58.
- 工藤和美, 1994, 「農村集落における地域環境に関する意識分析——写真投影法によるケーススタディ」, 『神戸大学大学院自然科学研究科紀要』 12-B: 123-131.
- Low, S. M. & Altman, I., 1992, “Place Attachment: A Conceptual Inquiry.” Altman, I. & Low, S. M. eds., *Place Attachment*, New York: Plenum Press, 1-12.
- Mazumdar, S., & Mazumdar, S., 2004, “Religion and Place Attachment: A Study of Sacred Places”, *Journal of Environmental Psychology*, 24(3): 385-397.
- McAndrew, F. T., 1998, “The Measurement of ‘Rootedness’ and the Prediction of Attachment to Home-Towns in College Students”, *Journal of Environmental Psychology*, 18(4): 409-417.
- Modell, J. A. & Brodsky, C., 1996, “Envisioning Homestead: Using Photographs in Interviewing (Homestead, Pennsylvania)”, McMahan, E. M. & Rogers, K. L. eds., *Interactive oral history interviewing*, Hillsdale, New Jersey: Erlbaum Associates, 141-160.
- Moore, R. L., & Graefe, A. R., 1994, “Attachments to Recreation Settings: The Case of Rail-Trail Users”, *Leisure Sciences*, 16: 17-31.
- 向山泰代, 2004a, 「自叙写真による自己概念研究」, 『応用心理学研究』 30(1): 10-23.
- 向山泰代, 2004b, 「自叙写真を用いた自己イメージ把握の方法——自叙写真法の実施手続きに関する検討」, 『京都ノートルダム女子大学生涯発達心理学科研究誌「ブシュケー」』 3: 11-24.
- 長瀬安弘・浅野智子, 2004, 「写真投影法による森林ボランティアと大学生の森林における空間認知に関する研究」, 『ランドスケープ研究』 67(5): 615-618.
- 野田正彰, 1988, 『漂白される子供たち』情報センター出版局.
- Okamoto, T., Fujihara, T., Kato, J., Kosugi, K., Nakazato, N., Hayashi, Y., Ikeuchi, H., Nakagawa, N., Mori, K. & Nonami, H., 2006, “Measuring Social Stereotypes with Photo Projective Method”, *Social Behavior and Personality*, 34(3): 319-332.
- 奥敬一・深町加津枝, 1995, 「写真投影法による箕面国定公園利用者の風景認識に関する研究」, 『ランドスケープ研究』 58(5): 173-176.
- Proshansky, H. M., 1978, “The City and Self-Identity”, *Environmental Behavior*, 10(2): 147-169.
- Proshansky, H. M., Fabian, A. K. & Kaminoff, R., 1983, “Place-Identity: Physical World Socialization of the Self”, *Journal of Environmental Psychology*, 3(1): 57-83.
- Relph, E., 1976, *Place and Placelessness*, London: Pion. (高野岳彦・阿部隆・石山美也子訳, 1991, 『場所の現象学——没場所性を越えて』筑摩書房.)
- Riley, R. B., 1992, “Attachment to the Ordinary Landscape”, Altman, I. & Low, S. M. eds., *Place Attachment*, New York: Plenum Press, 13-35.
- Schwartz, D., 1989, “Visual Ethnography: Using Photography in Qualitative Research”, *Qualitative Sociology*, 12(2): 119-154.
- 志村ゆず・鈴木正典編, 2004, 『写真でみせる回想法』弘文堂.
- 曾英敏・延藤安弘・森永良丙, 2001, 「サステイナブル・コミュニティの視点からみた高齢者のための団地再生計画の研究——写真投影法による高根台団地の考察」, 『日本建築学会計画系論文集』 549: 95-102.
- Stedman, R., Beckley, T., Wallace, S. & Ambard, M., 2004, “A Picture and 1000 Words: Using Resident-Employed Photography to Understand Attachment to High Amenity Places”, *Journal of Leisure Research*, 36(4): 580-606.
- Stokols, D. & Shumaker, S. A., 1981, “People in Place: A Transactional View of Settings”, Harvey, J. H. ed., *Cognition, Social Behavior and Environment*, Hillsdale, New Jersey: Erlbaum, 441-488.
- 寺本潔・大西宏治, 2004, 『子どもの初航海——遊び空

間と探検行動の地理学』古今書院.

- Tuan, Y-F., 1974, *Topophilia: A Study of Environmental Perception, Attitudes, and Values*, Englewood Cliffs, New Jersey: Prentice Hall. (小野有五・阿部一訳, 1992, 『トポフィリア——人間と環境』せりか書房.)
- 都筑学, 2005, 「写真投影法による青少年の内面把握の試み」, 『教育学論集』47: 223-249.
- 植村勝彦, 1993, 「『写真投影法』を用いた中学生の日常生活分析の試み——孤独感尺度による比較」第42回東海心理学会大会発表論文集.
- 植村勝彦, 1996, 『高齢期の夫婦のパートナーシップに関する社会心理学的研究——「写真投影法」による分析』平成6年度日本火災ジェントロジー研究報告, 日本火災福祉財団.
- Wapner, Seymour & Demick, Jack, 1992, 「有機体発達論的システム論的アプローチ」, 山本多喜司・S. ワップナー編著『人生移行の発達心理学』北大路書房, 25-49.
- 山中康裕, 1978, 『少年期の心』中央公論社.
- Ziller, R. C., 1990, *Photographing the Self: Methods for Observing Personal Orientations*, Newbury Park, CA: Sage.
- Ziller, R. C., 2000, "Self-Counselling Through Re-Authoring Photo-Self-Narratives", *Counselling Psychology Quarterly*, 13(3): 265-278.
- Ziller, R. C. & Lewis, D., 1981, "Orientations: Self, Social, and Environmental Percepts through Auto-Photography", *Personality and Social Psychology Bulletin*, 7(2): 338-343.

Measurement of place attachment using the Photo Projective Method.

ABSTRACT

This study aimed to measure place attachment to the university one belongs to using the Photo Projective Method (PPM). PPM is a new technique based on a projective method that uses photographs to capture perceived environments. In this study three approaches were used to review social research with photographs: the interview method, landscape evaluation, and an investigation into an individual's internal world. Ninety-five university students were provided with a camera and were requested to photograph their daily lives in their universities for a week. The Students took 1,258 photographs. The Photographs were classified according to the KJ method. The main findings were as follows. (1) The first category constituted photographs of the places and buildings of the universities. They represented a physical environment suggesting emotional bonds with the universities. (2) The second category constituted photographs of the symbolic constitutions of the universities. These photographs represented a socio-cultural environment suggesting cognitive ties with the universities. (3) The third category constituted photographs of people and companions in the university or of activities with them. These photographs represented an interpersonal environment suggesting social bonds and networks among university members. (4) The results revealed that PPM could not only measure personal and unique responses but also collective and common responses. Finally this paper discusses the advantages and disadvantages of PPM for social research.

Key Words: Photo Projective Method (PPM), place attachment, environmental cognition